

風の子フウ



作／ゆめおむすび



ぼくはフウ 風の子フウ

春は さくらの木の枝をぴよんぴよんとびうつるのがだいすき。

高いところにいると いろいろなところのカタチが見えるよ。



元気をなくした男の子。こころがトゲトゲ。

思ってもないことは 大事なあの子に 言っちゃった。



よし。ぼくにまかせて。

男の子のぼうしを あの子が泣いている神社まで

ぴゅ〜ぴゅ〜ぴゅ〜。



「さっきはごめんね。」

「…うん。」

ふたりで泣いてわらったよ。



ほらね。うそみたいに
まあるい気持ちになった。



フゥは コーヒーのにおいをかぐのがだいすき。

コーヒーを飲む顔で その人のこころの色が わかっちゃう。



あれれ。どんより雨雲みたいなところの色。

よし。ぼくにまかせて。



フウはいたずらっ子。

頭の上に木の実を8粒。ポトポトポトリ。「いたた！」



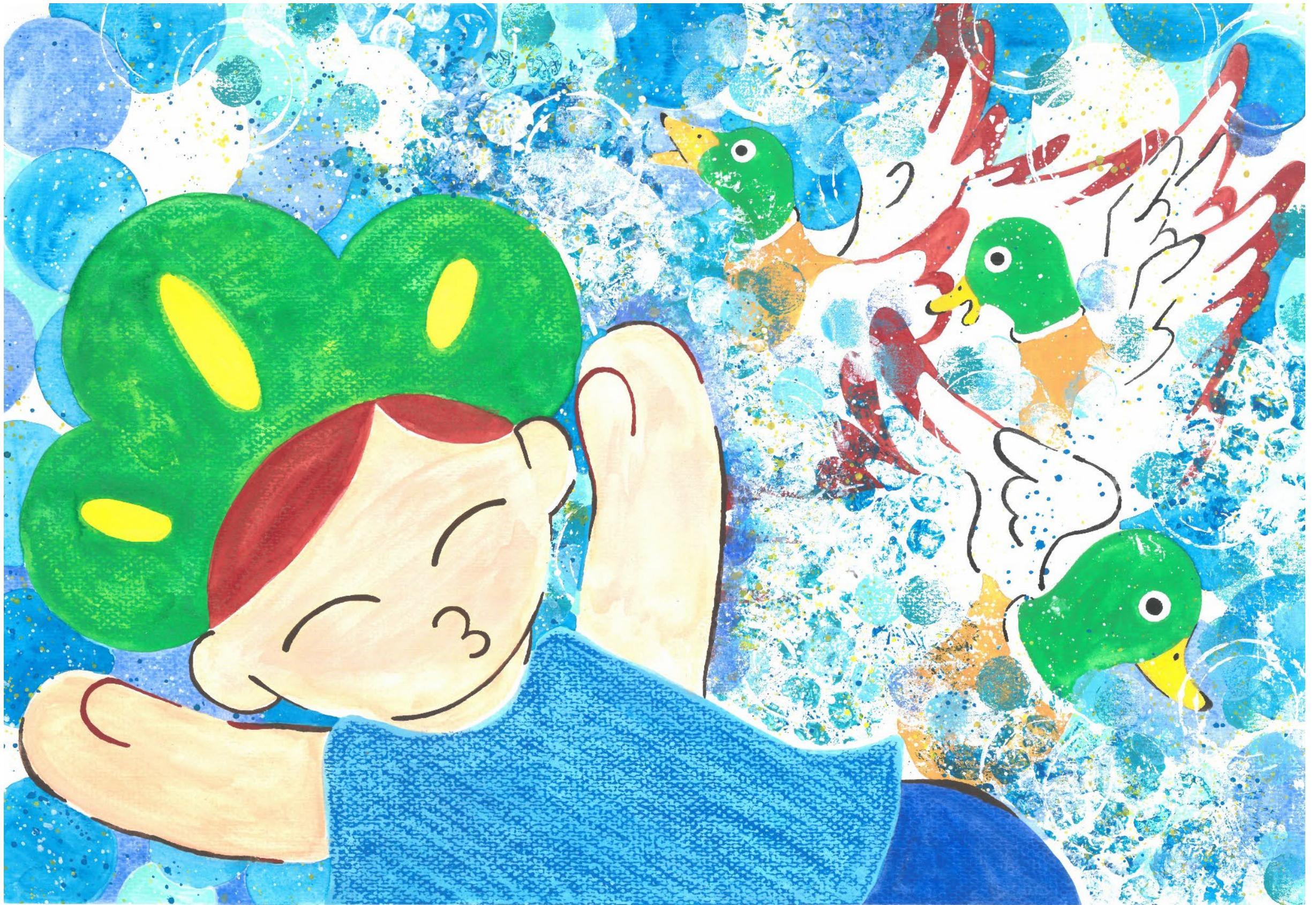
びっくりして上を見れば青くて大きな空。
そうか。世界はこんなにどこまでも広がっている。
ほらね。こころに晴れ間がさしてきた。



フウはおんぶが大好き。おばあちゃんの背中にそっとおんぶする。
こうやっていると こころの音が聞こえてくるよ。



あれれ。1年前にお別れした おじいちゃんに会いたくて
こころがキュウキュウ 泣いている。



よし。ぼくにまかせて。

フウはいたずらっ子。川で泳ぐカモたちにびゅーと突風。びっくりさせた。



突然、ガアガア おおさわぎのカモを見て
おばあちゃんの手からおだんごが川にちゃぽん。

あらあら！でも、前にもこんなことあったね。

「くくくくく」あわてんぼうのおじいちゃんを思い出して笑ったよ。



ほらね。おじいちゃんがたくさん笑ったあの時間 今も変わらずそばにいる。
こころの音も とっくん、とっくん 元気になった。



ぼくはフウ 風の子フウ
いつだって この町にいるよ。

住み継がれた町にある
温もりに感謝を込めて。

風の子フウ

絵：ゆめ 文：ごとうみか